

当院における手術、麻酔処置についての取り組み

不妊（避妊、去勢）手術や歯石除去などの全身麻酔下での手術・処置などをお考えになるとき どのように手術・処置が行われるかなど不安に思う方も多いことと思います。

そこで当院での手術に対する考え方、取り組みなどをご説明することにより少しでもそのような不安を解消していただければと思い、このようなページを作ってみました。

手術体制について

当院ではどのような手術に対しても原則 術者、助手、麻酔担当、雑用担当の4人体制（但し猫の去勢手術だけは2人（術者と麻酔・雑用担当））で行うようにしています。簡単な手術なら1人で行うことも可能ですが、緊急事態に対する対応や より正確に早く手術を進めるためには複数の人手があることが重要と考えるからです。



手術の時間帯について

手術は基本的には午前の診療と午後の診療の間の専用の時間帯に行います。（但し極めて緊急を要する場合を除きます。）診療時間中の空き時間や午前診療が終わって引き続き行うなどの病院もあるようですが、4人体制を維持したいことと手術に臨む準備などをしっかり整えてから行いたいと考えるからです。

全身麻酔について



近年 様々な注射麻酔薬が開発され、体に負担の少ないお薬や極めて短時間だけ麻酔が効くお薬など手術内容や処置内容に応じてその麻酔法もいろいろ選択できる時代になってきました。ただ基本的には注射麻酔は麻酔の導入時に使用するもの（例外的に注射麻酔薬で維持することもあります）で、麻酔を維持するためには吸入麻酔（ガス麻酔）が重要な役割を担っています。当院ではガス麻酔中の動物には生体情報モニターと呼ばれる監視装置で麻酔濃度、呼吸回数、心電図、血中酸素濃度（SPO2）、呼気中二酸化炭素濃度（ETCO2）、体温などを一元管理し、リアルタイムで動物の状態を監視しながら手術を行っております。また麻酔装置には人工呼吸装置も組み込まれており、緊急の場合や手術によっては呼吸を止めて、人工呼吸下での手術を行うこともあります。

それでも麻酔という行為は危険を伴うことですので必要の無いと判断される動物に全身麻酔をかけることは基本的には行っておりません。

麻酔後の動物の取り扱いについて

全身麻酔をかけた後の動物は導入時に用いる鎮静剤の影響や覚醒時の不安などからいろいろな予測不能な事態を招くことがあります。従って当院では手術後の動物には最低1日は入院していただくようにしています。（但し歯石除去などの麻酔処置に関しては、手術麻酔のような深い麻酔は使用しませんので当日お返しするケースもあります。）

エンシールシステムの導入について



当院では結紮系（血管などを縛る糸）などの影響が疑われる縫合糸反応性肉芽腫（無菌性脂肪織炎）などの異常への対応と手術時間の短縮などの目的でワンちゃんの不妊手術（避妊手術、去勢手術）や腫瘍摘出手術などにおいて **エンシールシステム**を導入しております。これにより結紮系を使用しない確実な止血と手術時間の短縮が大幅にアップいたしました。また細かい血管からの出血に対しては電気メスも併用することにより、より出血や術後の腫れを少なくできるよう努力しております。



不妊（避妊）手術後の抜糸について

当院では ワンちゃんもネコちゃんも女の子の不妊（避妊）手術及び男の子のワンちゃんの不妊（去勢）手術では抜糸の必要が無いように 皮膚の縫合は**合成吸収糸による皮内埋没縫合**を行っております。（ネコちゃんの去勢手術だけは切開創が非常に小さいので吸収糸による結紮縫合としています。）このことにより体表の縫合糸を噛んで取ってしまったり、縫合糸を気にして術部を舐めないように腹帯やEカラーをつける必要もなく、抜糸時の不快な体勢による精神的不安も無くなります。

